

元治二年一月十三日より元治二年一月十九日まで

P8311215 right

を供す、歛児は直に牛込へ年賀に廻り婢たち随ひ宿泊し、鮎一重袖口(チリメン)式、並婢へ永持

婢に同品を遣す、寺山□為児を送り返す、藤沢叔母広沢小君同道、年賀に来り白酒
萌し茗荷一叢、其外小品数種婢へも小品を贈らる、酒肴を享し(すすめる)、広沢小君へは半衿
白粉(おしろい)等を遣す、

十四日戌 陰、夕雨、夜震

蓮池(身)来り面す、傲骨坊の書生也、出 殿、渡辺(幸)年賀に来りし旨、牛込(□)歛児
迎駕を遣し帰り来る、同所(より仕度)拝領時服残四、柑子其外小品数種贈り越し、且迎婢たちへ
一朱外に

品添 並黄窪にて同婢へ小品遣せし旨也、削り懸けを□す

十五日亥 陰

御禮有し、宅調、赤小豆粥を炊く、永持□為児年賀に来る、小白鱗其外取合せ物一重

P8311215 left

婢共へ白半衿一づつ携ふ

十六日子 雨雪夜雪

石川(主税)より年賀状届く、出 殿、佐藤(又)より塩数の子少許贈らる、急□須箱入を以
酬し旨

十七日丑 雪意

宅調、紅葉山 御成御沙汰止、保三来る、細谷(秀)来る、不面

十八日寅 晴漸陰

冲野(遠)来り、初て面す(老実様子)、出 殿、崎地中臺より、寒見舞状届く、内山桑野
発会に付太郎

義金蔵兼松を随へ行き、内山へは鶏卵一折、桑野には酒二升を携ふ

十九日卯 雪漸薄陰

(内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。